

こころとこころを通わせる HATI-HATI はていはてい

HATI-HATI はインドネシア語で相手を思いやる時に使うやさしいことばです。

古民家から車で 5 分。トレイディングケアの新しい事務所は、高浜市沢渡町にあります。沢渡町は、高浜市の中でも中心部にあたり、古民家と比べるとかなり雰囲気が違います。近くには、県営住宅もあり、日系の外国の方などが多く住む地域です。新事務所は、高浜市の地場産業である瓦を作っていた会社の社宅として使われていたところです。2F には、パキスタン人家族が住んでいます。彼らからゴミステーションの場所などを聞いたりして、新たな場所での多文化共生がはじまりました。異国の言葉が日常から流れ、古民家とは違う楽しさがあります。

いろいろな方から、古民家を離れた理由を聞かれます。とても素敵な場所でした。地域の中に入り込んで、地域の人たちとごちゃまぜで共生するには、うってつけの場所でした。しかし、コロナウィルスの感染拡大により、今までのようなごちゃまぜではソーシャルディスタンスが保てません。入国制限が解除され、入国後、2 週間は隔離が必要となります。職員の安全も考えながら、隔離中のオンライン対応を考えています。また、男女での共同生活ではなく、別々での生活をさせます。役割（掃除など）責任をもって行動することを学ばせたい。このような意図を考えています。

今後は、こういった今までの経験を踏まえて、日本の生活にアジャストしてもらうために、様々な工夫をしていきたいと考えています。

7月20日現在、インドネシアから日本への渡航は制限されています。インドネシアから日本への入



国を心待ちにしている人たちが、早く安全に日本に来れることを祈っています。

代表理事 新美 純子

厚生労働省のガイドブックに

掲載されました！！

令和元年度厚生労働省老人保健健康増進事業で作成された「外国人介護職員の受け入れと活躍支援に関するガイドブック」に当法人が掲載されています。以下の URL から全頁見ることができます。赤字を入力して検索をしても出てきますよ。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/000627720.pdf>

スラさん、N2への道（第3回）

実習 5 か月目に突入したスラさん。暑い季節となり、一日介護現場での実習を終えると、クタクタになってしまいます。N2 の勉強をと思っても思うように進まないそうです。

そんなスラさんですが、愛知県多文化共生室が主催するスピーチコンテストにエントリーすることになりました。作文を書きながら基本的な文法

新しい生活における共生

第3期生のニンタさんとヌルルさんは、社会福祉法人豊生会の理事長先生宅にホームステイ中です。はじめは、どんな料理にも唐辛子をかけて食べる彼女たちを見て、最初は、かなりびっくりしたそうです。言葉の違い、文化の違いを感じながら、日々の生活の中で、日本の暮らしを教えてくれています。国や年齢を超えたつながりに新たな絆が見えました。

新美



)

実習生の生活

初めてのおみくじ

三河病院で技能実習を行っているワヒュくん。自慢の黄色い自転車で岡崎市内を散策しています。トレケアの授業の中で、神社での作法等を聞いていたので、手水も上手にできました。そして、初めてのおみくじ。結果は小吉でした。。

(新美)



スピーチコンテストにエントリー

愛知県多文化共生日本語スピーチコンテストに当法人から2名がエントリーしています。一人は、共和病院のスラさん、もう一人は、南知多病院のセプさんです。スラさんは「日本とインドネシアの高齢者の違い」を書きました。日本とインドネシアの医療・福祉の違いを知っているからこそ書ける内容です。セプさんは、「織田信長」と題して書きました。彼は織田信長の大ファンで、作文も信長愛に溢れています。これまでにも聖地巡礼で桶狭間公園や岐阜城、名古屋城を巡ったそうです。

2人とも第一次審査が通過しますように。

今月のやさしい日本語

「少々お待ちください」

先月の訪問時に各施設で技能実習検定についての説明をさせていただいています。それに併せて、普段の業務でも活用できる介護の声かけ表現リストを配付させていただきました。ご活用ください。

日常の業務の中では、実習生では対応が難しい事例に遭遇することがあります。このような時は「少々お待ちください」とお返事ができるように指導いただくといいと思います。

<例文>

「日本人スタッフを呼んでまいりますので、
少々お待ちください。」

実習生は、患者様や利用者様の話を一生懸命聞こうとして、タイミングを逃してしまうことがあるかもしれません。状況に応じて、声かけしていく

編集後記

コロナウィルスが蔓延してきているので、実習生達にLINE等で注意喚起しました。多くの実習生が日本の生活に慣れてきたようで、余暇も満喫している様子が窺えますが、油断することなく、ポストコロナの日本の

公益社団法人トレイディングケア

〒444-1336 愛知県高浜沢渡町3-3-6 ハイムイノ1-B
TEL/FAX 0566-57-7700

facebook instagram

